

千葉県立成田西陵高等学校

「地域への貢献と活性化、実学を活かした即戦力の育成を目指して」

本校は明治39年創立以来114年を迎えた地域に根差した農業と商業の専門高等学校です。「独立自尊、積極進取、質実剛健」の校訓を指針とし、普通教育と各学科の特色ある専門教育を行い、幅広い教養と専門的な知識・技術を身につけた地域・社会に有為な人材の育成を目指しています。「実学」をとおして自身を耕し、「汗して培われたものは失われない～地域に飛び立て西陵生～」(ア・挨拶、セ・清掃、シ・出席、テ・丁寧な言葉遣い)をモットーに、長年培った現場実習(インターンシップ)を柱としたキャリア教育を行い、豊かな人間性と社会性を育み、将来の人生設計や進路実現ができるよう日々取り組んでいます。

園芸科、土木造園科、食品科学科、情報処理科の4つの専門学科で1学年5クラス構成され、600人の生徒は、明るく素直で、元気に勉学に励んでおり、その学びの多くが実験・実習・演習を伴う体験的な学びとなっております。

園芸科では地域でも評判のシクラメンの販売による「シクラメン祭り」やメロン等の果樹の生産を行いました。育てたシクラメンを地元市役所に寄付するなどの地域への貢献も行いました。

土木造園科では「若者ものづくり競技会」の全国大会に出場しました。自分自身が日々学んでいる内容をさらに高め、成果を発揮する機会となりました。また、将来どのように役立つのか理解するとともに、仕事に対する具体的なイメージを持つことができました。

食品科学科では外部講師として「ものづくりマイスター」をお招きし、講演及び実演等を行い洋菓子の魅力や素晴らしさを体験し、将来食品に携わる産業人としての心構えを学習しました。

情報処理科では、社会人として即戦力となるような人材の育成を目指し、簿記実務検定や情報処理検定等の資格取得に取組みました。3年生の授業では食品科学科で使用する商品シールや学校紹介ポスターの作成も行いました。

今後も専門学科の特徴を活かしこれらの取組の継続、発展をしていくとともに生産から販売まで全ての流通に関わる科が存在する本校ならではの横断的な取組みや新たな「西陵ブランド」の創造を行っていきます。

本校は、これからも地域のために積極的に取り組んでまいります。御期待ください。皆様の御来校をお待ちしています。

本年度の取組み

- (1) 生徒が栽培したシクラメンの市役所への寄付
- (2) 若年者ものづくり競技会 全国大会への出場
- (3) ものづくりマイスターによる教育
- (4) 商品のラベル作成

(1) 生徒が栽培したシクラメンの市役所への寄付

1 目的

教育活動の一環として、生徒が栽培を行ったシクラメンを地域の方に見て楽しんでもらい、成田西陵高校の活動を知ってもらおうとともに、コロナ渦で多くの制限がかかる中で少しでも華やかな気持ちになって欲しいという思いから行った。

2 成果

日々の授業で栽培したシクラメンを地域の方に見て喜んで頂くことで、自己の達成感や取り組んでいる事に対する自信を持つことができた。学校での取り組みを知って頂くきっかけになったとともに、地域の方々と交流のなかで、どう説明すればうまく伝わるか等のコミュニケーションを学ぶ機会にもなった。

3 準備・実施段階の工夫

シクラメンの栽培管理や準備は2・3年草花の授業で実施した。シクラメンの栽培管理は丁寧に行った。また、花の色やバランスを意識して展示を行った。

4 広報・報道実績

学校ホームページ及び毎日新聞に掲載。

5 取り組みへの反響

保護者や地域の方から成田西陵高校の活動や生徒の取り組みを知る良い機会になったとお話を頂いた。

6 今後の方向性

シクラメンをどうすれば若い世代により興味を持ってもらえるようになるか工夫を行っていききたい。



本校で栽培しているシクラメン



シクラメンを栽培している生徒及び学校長



市役所に展示されている様子

(2) 若年者ものづくり競技会 全国大会への出場

1 目的

千葉県代表として校内の学習内容が全国ではどのように評価されるのか体感するとともに、他の学校の作品を見ることで刺激を受け今後の作成意欲に繋げるために行った。

2 成果

日々の授業で学習している造園の技術(植栽、竹垣作成、敷石の敷設、石の加工等)をさらに高めるため、千葉県の代表として出場した。今回の課題の中で最も難しいのは石の加工であり、練習を始めた当初は思うように石を割ることができなかったが、6月から「ものづくりマイスター」からの指導を受け、放課後に地道に練習を重ね、大会当日は規定時間内に課題を作成することができた。

3 準備・実施段階の工夫

1学期の中間テスト以降「ものづくりマイスター」から指導を受け、日々の練習に励んだ。

4 広報・報道実績

造園連新聞に内容の掲載(大会全体のもの)

5 取組みへの反響

当初はできなかった石の加工が生徒の努力及び、「ものづくりマイスター」からの指導によりできるようになり自信がついた。

6 今後の方向性

大会への参加を継続して行い、生徒自身の更なる技術を高めよりよい実績を残したい。



ものづくりマイスターより教わっている様子



石の加工の様子



全国大会で作成した作品



全国大会で作成した作品
と出場した生徒

(3) ものづくりマイスターによる教育

1 目的

令和2年度は食品化学科2年生40名に対し、11月7日(土)、11月14日(土)の2日間、洋菓子実技指導講習会を洋菓子マイスターが実施した。科目「総合実習」の時間外1単位分として実施し評価に導入した。

2 成果

「洋菓子マイスター」より洋菓子の種類、材料等の基本的な知識等についての講義や、道具の使い方、作業手順を受講者のレベルにあった実演、指導をして頂いた。それにより、普段の授業では学べないより現場に近い知識、技術に触れることができた。

3 準備・実施段階の工夫

千葉県職業能力開発協会コーディネーター、洋菓子マイスターと10月6日事前打ち合わせを行い、会場事前視察、レシピや材料の確認を行った。工夫としては学校で栽培したサツマイモを使ったカップデザートを制作した。

4 広報・報道実績

学校ホームページに記載。また講習当日に中学校説明会を実施し、食品科学科が行っている講習会の様子として中学生が見学した。

5 取組みへの反響

現在3年生となった受講生は、洋菓子講習会や洋菓子専門学校での体験を通じ、パティシエを目指して進学する生徒や地元のパン屋食品企業への就職者、食に携わる進路を選択する生徒が増加した。

6 今後の方向性

1年生には3学期和菓子講習会、2年生には2学期洋菓子講習会と学科の特色ある教育に外部講師を取り入れる教育を継続する。



ものづくりマイスターより教わる様子



クレームシトロンをつくる様子



クリームを絞る様子



完成品

(4) 商品のラベル作成

1 目的

実習として行っているラベル作成を活用し、本校の他学科である食品科学科が作成するジャムのラベルとして使用することで学科間での交流及び、商品に付加価値を付けることの意義の一例として行った。

2 成果

日々、授業の中で取り組んでいる実習について情報処理科の中で終わるのではなく、実際の商品を扱うことでより実学に基づいた学習を行うことができた。他学科と関わる機会があまりないため、交流を行う良いきっかけとなった。

3 準備・実施段階の工夫

ビンに実際に貼ることでデザインの見え方や印象が変わるため、デザインがその商品に与える影響やどうすれば良い印象を持ち、購入に繋がるか意識した。

4 広報・報道実績

中学校説明会での展示

5 取組みへの反響

PC上でつくるだけでなく、実際の商品に貼ることで完成への過程に関わられた達成感や商品販売の実感を持たせることができた。

6 今後の方向性

継続して行うとともに、他学科で生産した商品をどのように販売するか、どうすればより売れる商品となるか考え、実際に販売を行いたい。市場調査を行い地域住民にどのようなニーズがあるかについても研究することで、学習した内容と実際の商売について結び付いた学習を行いたい。生産、加工、販売の全てに通じた科が存在する本校の特性を生かし、新たな「西陵ブランド」の立ち上げを行いたい。



生徒が実際に作成したラベルの写真



日々の授業で作成に取り組む様子